

# わかった！できた！



令和3年7月21日 No.13

## タブレット一台、トップを走る阿東小！

今年度は、とうとう一人一台のタブレット端末が導入されました。昨年度よりタブレット活用に取り組んできた本校では、児童もタブレットを使うのを楽しみにしていました。先生方も「ICTプロジェクト」のメンバーを中心に年度当初よりタブレットを積極的に活用してくださり、ありがとうございました。廿日市市内はもちろん、広島県下でもタブレットの活用実践を積極的に行っている数少ない学校の1つになっていると実感しています。「廿日市市教委だより」でもトップで紹介していただきました。

児童の学習アンケート「タブレットが学習の役に立った教科は？」（複数回答）という質問に、国語、算数以外にも様々な教科を挙げていました。このことから、先生方が幅広く実践されていることがよく分かります。また、タブレットを活用することは、児童の学習意欲を向上させ、これまで考えようとしなかった児童の思考を促すことにもつながります。アンケート結果からも、「タブレットを使うと授業がよく分かる。」88.7%、「考えるときにタブレットを使うと考えやすい。」84.5%など、80%～90%の児童がタブレットを使った学習に対して肯定的な回答をしています。また、先生方にとっても、メリットが多かったと感じています。

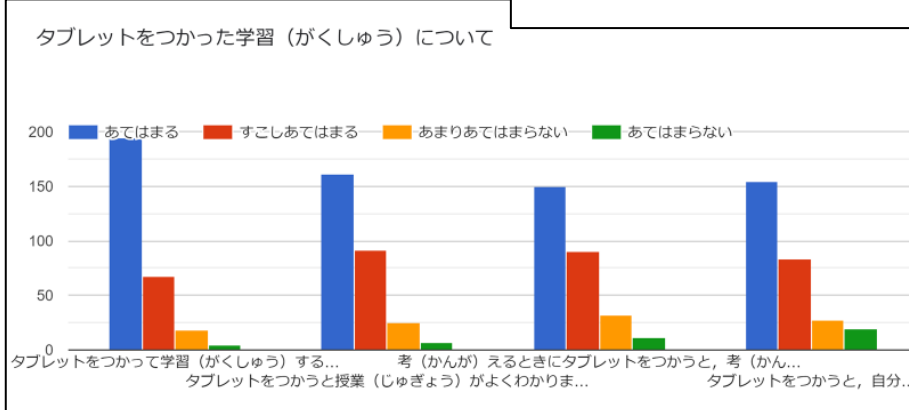
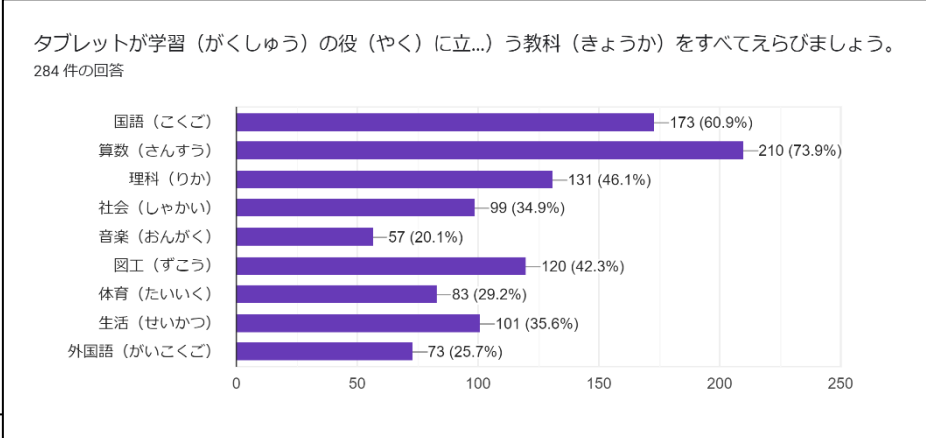
9月8日（水）には、市教委主催のICT活用教育推進研修が本校で行われます。

**ICT活用への道** タブレットをこうして活用しています！第1弾

本格的にタブレットの活用が始まった令和3年度、廿日市立小・中学校でどのように活用されているか、ご紹介していきます。

6月号は「阿品台東小学校」です。先日、4年生の算数の授業を参観しました。

教材は、「一巻をこえるぞ」です。授業の導入から、一人一人のタブレットへ課題が表示されています。先生の問いかけに対して、子どもたちはタブレットに表示された問題を読み思考していきます。授業支援クラウド「ロイノート・スクール」を使っているので、課題を解き終わると子どもたちは提出箱へ課題を保存していきます。提出箱に入っている回答は一覧で確認できるので、クラスみんなの回答を共有し、学び合うことができます。45分の授業が「あっという間」です。「考える」「説明する」「考える... 子どもたちも学び姿勢が止まりません。子どもたちの「主体的な差」を生み出したのは、先生の発問とタブレットでした。算数の授業 操作に困ったら助け合う



これを好機ととらえ、2学期に向けてこの夏休みにアイデアを温め、更なる実践につなげていきたいと思ひます。